

復職後のフォローアップセッションとして 導入した職場定着支援プログラムの効果

～就労継続率の変化からの考察～

医療法人社団 五稜会病院
○高谷広美・池田博子・清水陽平・中村亨・中島公博

はじめに

【五稜会病院リワーク】
対 象:うつ病など気分障害を理由に休職または離職している方
目 的:就労準備性を高め、円滑な職場復帰を図る
復職後の再休職を予防し就労継続性を高める

【五稜会病院リワークでの就労継続率】

1年以内特に
半年以内の再休職が多い

↓

復職後6ヶ月以内の方を対象としたフォローアップセッション(以下、
職場定着支援)を開始

本研究の目的

職場定着支援導入の効果として2点を検証

- ①復職後の早期の再休職を予防することができるか
- ②職場定着支援終了後も効果を維持し就労を継続できているか

職場定着支援プログラム

目 的:早期再休職の予防
リワーク内で学んだスキルの応用と定着

参加基準:リワークを利用し復職・再就職した後6カ月以内、
かつ給与が発生している方

内 容:月に2回、復職後に遭遇した問題を取り上げ、
リワークで学んだ対処スキルを活用するよう
働きかけながらグループワークを実施

方 法

対 象:2013年10月から2014年10月までに職場定着支援の
参加基準を満たした17名

方 法:対象を2群に分け、復職後3ヶ月、6ヶ月、9ヶ月、
12ヶ月の就労継続率を算出し比較検討

	非参加者群 (n=10)	参加者群 (n=7)
参加回数	0～5回	6～12回
平均年齢	40.5±8.6歳	36.9±5.3歳
平均休職回数	1.1±0.3回	1.5±0.7回

※倫理的配慮として、本研究開始にあたり当院の倫理委員会の承認を得た

結 果

時間	参加者群 (n=7)	非参加者群 (n=10)
復職時	100%	100%
3ヶ月	100%	80.0%
6ヶ月	100%	80.0%
9ヶ月	85.70%	80.0%
12ヵ月後	85.70%	70.0%

考 察 ①

①復職後の早期の再休職を予防できているか

- ・参加者群の方が就労継続率が高くグラフの傾斜は緩やか
- ・非参加者群の6ヶ月での就労継続率は職場定着支援開始前の当院のデータと同じく推移



職場定着支援の期間(6ヶ月)は再休職予防として効果があった

考 察 ②

②職場定着支援終了後も効果を維持し就労を継続できているか

- ・6ヶ月以降は参加者群の就労継続率が低下

長期的な効果として不十分である可能性

⇒リワークで学んだスキルの応用と定着が不十分である可能性

- ①職場定着支援の頻度の少なさと期間の短さ
- ②的確なトレーニングの促しが不十分
- ③動機づけが不十分



職場定着支援の頻度の増加、ホームワークの利用
書面を用いた丁寧な導入により
6か月以降も効果を維持できる可能性がある

今後の課題

- ・対象が17名と少数
⇒統計学的検討が必要
- ・参加回数での分類
⇒分類が適切であったか検討が必要

結 論

職場定着支援導入後の就労継続率の変化を、参加者群、非参加者群の2群に分けて比較検討した



職場定着支援の実施期間(6ヶ月間)は再休職を予防し就労継続のために効果があることが示唆された
しかし、終了後は効果を維持することが出来ておらず
今後も内容の検討が必要である